

保育の實際

△種子の採集

學習院女學部
幼稚園

野 口 幽 香

私どもの幼稚園では、秋になりますと、一番上の組の子どもに植物の種子の採集をさせます。申すまでもなく、自然界觀察の爲なので、家庭で、も、途中で、も、幼稚園で、も、見當り次第拾つて持つて來させますが毎年随分澤山に集ります。今年も十月の末からそろ／＼始めまして、十二月中集めて居ります。けふまだ十二月の十日ですが、一方の組では百三十餘、一方の組では百五十餘集めて居ります。勿論朝顔の種子などは大勢が持つて居りますが、子どもから申せば別々に眼についたのですから、一口數の中に入れるのです。そこで、採集した種子は仕切りのある箱へ入れて保存いたしまして、來年の春、畑へ蒔きます。即ち其の時は

實際拾つた子ども次の組のこともがする譯で、此の點が稍面白くないのですが、仕方がありません。そこで、今私の申度い要點は是れからなのでして、其の子ども達が種子を採集します間に、其の種子の各の性質と申しませうか、即ち植物の種子が如何に其の繁殖を遠方までさせる様に出來て居るかといふ、自然の妙技を幾分なりと觀察させ、興味を起させ度ひと思ひましたのです。しかし勿論六かしい植物學の方のお話は子どもに分りませぬから、次の様にして種子の種類のいろ／＼あることを話して見ましたのです。

一、飛行器の様に、風が吹くとくる／＼とまはる種子。

例へば、紅葉の種子、

二、飛行器の様に、風が吹くと飛んである種子、

例へば、タンポ、野菊、藤袴の種子、

三、お菓子の様に奇麗でおいしさうで鳥の大す

きな種子、

例へば、南天、

四、お巾著の様に子供の腰のまはりにくつつく

種子、

例へば、藪シラミ、

五、地雷火の様にバチバチと飛んではねる種子

例へば、ホーセン花、カタバミ、

まだありますが、手近なこんな類を話しましたら、子どもはサア大喜び、ニコ／＼と聞いて居ました。が、それから後、風の吹く日は、「先生飛行器の種子が」と、太郎も採れば次郎も採つて風に吹かせて大騒ぎ。そこで、うま／＼いつたなと先生自身もニコ／＼。

△毎朝のお話

麴町區富士見小学校
附 園 幼 稚 園

山下つや

毎朝全園児を一室に集めて、五分から十分位まで

のお話を、主任保母が致します。其の仕方は保母が、「みなさんはどの子どもになつたのでせうか」と問へば、大きい子どもは、富士見幼稚園の子ども」と答へる。それで、自分は富士見幼稚園の子どもだといふことを、幼児の頭へ入れておき度いと考へて居りますのですが、子どもは能くうけとつて呉れる様に思はれます。それから、「富士見幼稚園の子どもは、どういふ子どもになるのでせう」と聞くと、「立派な良い子どもになる」と答へます。そこで、立派な良い子どもといふことは如何なることかを云ひ聞かせます。立派な良い子どもといふのは、すなはな子、泣かない子、お顔や手をきれいに洗つておく子、お友だちと仲よく遊ぶ子、自分より小さいものを可愛がる子、まぢがつたことはしない子、なんでもほんとうのことを言ふ子、お行儀のいゝ子、なんでも本氣になつて精出してする子、此等のことを毎日練りかへして話して聞かせ、實行の出来るように誘つて居